

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性						
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値	R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値	達成率				
Ⅱ「彩りあるまち」の実現																													
彩りある文化・芸術によるにぎわいの推進	1	北九州国際音楽祭	地域の音楽文化の向上を図るため、国内外の一流のアーティストによる公演や小中学生の鑑賞教室など、多彩なプログラムの国際音楽祭を開催する。	文化企画課	北九州国際音楽祭の参加者の満足度維持（来場者アンケート：毎年度）	R4	99.0	%	R11年度までの目標：毎年度90.0%以上	90.0	%以上	98.0	%	108.9%							38,000	33,690	順調	世界最高峰の弦楽四重奏団と本市出身の若手ピアニストの共演や、北九州市ゆかりのアーティスト率いるオーケストラによるコンサートを開催した。多彩なプログラムにより来場者の満足度も高い水準を維持していることから、「順調」と判断。 引き続き高い満足度を維持するため、世界で活躍するアーティストを招聘し、魅力的なプログラムを実施していく必要がある。	継続				
	2	芸術文化活性化事業	北九州芸術劇場や響ホールが持つ特性を活かし、多彩で良質な音楽や舞台芸術等を提供する。	文化企画課	自主事業の参加者の満足度維持（来場者アンケート：毎年度）	R4	芸術劇場92.9% 響ホール99.1%	R11年度までの目標：毎年度90.0%以上	90.0	%以上	芸術劇場90.3% 響ホール97.3%	芸術劇場100.3% 響ホール108.1%	文化のかおるまちと思う市民の割合の増加（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	28.5	%	R11年度までの目標：40.0%	32.0	%	28.5	%	89.1%	83,000	83,000	概ね順調	北九州市を文化のかおるまちだと思う市民の割合は目標値に届かなかったが、北九州芸術劇場、響ホールの両事業について、自主事業参加者の満足度は高い水準を維持しており、参加者に対して音楽や舞台芸術を通じた良質な文化体験の機会を提供していることから「概ね順調」と判断。 今後も、当事業を通じて多彩で良質な文化芸術に触れる機会を創出し、まちに彩りを生み出す。	継続		
	3	芸術文化育成負担金・補助金	北九州市の文化水準の向上及び地域文化の振興に資することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。	文化企画課	文化団体事業参加者数（文化芸術に触れた人数）の維持	R4	56,000	人	R11年度までの目標：毎年度56,000人	56,000	人	68,500	人	122.3%	文化芸術活動をした市民の割合の増加（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	16.9	%	R11年度までの目標：30.0%	22.0	%	22.5	%	102.3%	34,000	34,051	順調	事業にかかる経費の一部を市が補助することで、民間団体による様々な文化事業が実施された。 文化芸術活動を実施した市民の割合が、目標値22.0%及び令和6年度実績21.3%を上回り、地域・市民レベルにおける文化活動を支える効果があったことから「順調」と判断。 今後も、助成の内容や効果を検証しながら、市民が主体となっていく多種多様な文化活動を支援し、市民が文化芸術を育み、継続できる環境づくりに取り組む。	継続
	4	（仮称）キタキューまちなかアート事業	演奏会や子ども向けワークショップなど、まちなかで音楽やアートに気軽に楽しむことができるイベントや、市民みんなで公共空間をペインティングし、アートのスポットを生み出す取組などを実施する。 また、若者の文化芸術活動の活性化、まちの賑わいづくり等に繋がる事業への助成を行う。	文化企画課	参加者の満足度（イベント参加者アンケート：毎年度）	—	—	—	80.0	%以上	84.5	%	105.6%	文化芸術を身近に感じる市民の割合の増加（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	30.5	%	R11年度までの目標：40.0%	32.0	%	46.4	%	145.0%	20,000	32,739	順調	まちなかでの様々な歌イベントの開催や、公共空間をペインティングし、アートのスポットを生み出す取組を実施したほか、若者の文化芸術活動の活性化、まちの賑わいづくり等に繋がる事業への助成を行った。 参加者数、参加者の満足度、文化芸術を身近に感じる市民の割合増加のいずれの目標においても目標値を上回ったことから、「順調」と判断。 今後も、市民が主役となる音楽イベントや、歌を通じて一体感や交流を生む取組等を市内各所で展開するほか、市民の文化芸術活動活性化のための支援を継続していく。	継続	
	5	美術館企画展	多彩で魅力的な展覧会を開催し、本市の美術・文化の振興を推進し、彩りあるまちづくりに寄与する。	美術館普及課	美術館入館者数	R4	187,000	人	—	200,000	人	125,281	人	62.6%							103,039	89,631	やや遅れ	北九州市在住で、人気のある黒田征太郎展を代表とする魅力的な企画展を開催したものの、開館50周年記念の前年度に比べるとやや入場者数が減少し、目標に達しなかったことから、「やや遅れ」と判断。 次年度以降も魅力的な展覧会を開催予定であり、広報活動等に力を入れて、集客増に繋げる。	継続				
	6	博物館企画展・特別展充実事業	入館者の増加につながる、魅力ある大型特別展を開催する等、東田地区のさらなる賑わいを創出する。	自然史・歴史博物館普及課	博物館総入館者数	R5	431,278	人	R9年度までの目標：470,000人	470,000	人	433,282	人	92.2%							71,275	69,013	概ね順調	令和7年度の入館者数は目標値をやや下回る結果となったが、団体利用や外国人入館者数が着実に増加しており、更なる集客増の可能性を感じたことから、「概ね順調」と判断。 次年度は、魅力のある特別展の実施や戦略的な団体誘致、広報PRに取り組み、更なる入館者数の増加に努める。	継続				
	7	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画文化の普及・振興を図り、北九州市及び漫画ミュージアムの魅力を国内外に発信するため、常設展示の充実、企画展やイベント等を開催する。	漫画ミュージアム事務局	漫画ミュージアム入館者数	R5	95,252	人	—	100,000	人	114,670	人	114.7%	漫画ミュージアムの認知度（行政評価市民アンケート：毎年度）	—	—	—	50.0	%	37.5	%	75.0%	56,060	54,976	概ね順調	年間入館者数は、北九州ゆかり作家の周年企画展や館内外での体験イベントの開催などにより好調で、目標を大きく上回る達成率114.7%を記録したものの、漫画ミュージアムの市民の認知度は達成率75%であり、総合的に「概ね順調」と判断。 今後も、幅広い広報で国内外へ「漫画の街・北九州」を発信し、漫画文化の普及および漫画による観光客の誘致に力を入れていく。	継続	

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性						
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値							中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率
	8	北九州国際映画祭関連事業	北九州国際映画祭の開催を通じて、北九州市から世界に羽ばたいていった映画や映画人が北九州市に再び集い、市民との交流や映画をテーマにしたイベントを実施するとともに、映画人材の育成を促進する。	MICE・メディア芸術課	パブリシティ効果	R5	3 億円		R9年度までの目標：3億円	2 億円		1.3 億円		65.0%	来場者の満足度アンケートで「満足」「やや満足」と回答した人の割合（来場者満足度アンケート：毎年度）	R5	90.0 %		R9年度までの目標：毎年度90.0%	90.0 %		88.6 %		98.4%	23,000	24,403	概ね順調	第3回北九州国際映画祭において全世界を対象としたショートフィルム・コンペティションを初開催するなど、国際映画祭としての基盤強化を図るとともに、新たに「北九州ムービーアカデミー」を立ち上げ、次世代を担う映画人材の育成強化にも取り組んだ。 映画祭参加人数では（目標：4,000人、実績：5,085人）と、目標を大きく上回る成果を得た。パブリシティ効果及び来場者の満足度アンケートでは、それぞれ目標に達しなかったものの、全体としておおよそ目標に近い水準であることから、「概ね順調」と判断。	継続
スポーツによるにぎわいづくり	9	大規模国際スポーツ大会等誘致関係事業	国際スポーツ大会等の誘致・開催支援を通して都市のブランド力を向上させ、さらなる大会誘致につなげるとともに、観光や地域資源等と組み合わせることで大会の付加価値向上に取り組む。	スポーツ振興課	スポーツを身近に感じる市民の割合（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	44.4 %		R11年度までの目標：70.0%	54.0 %		51.9 %		96.1%	スポーツ実施率（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	56.6 %		R11年度までの目標：70.0%	62.0 %		53.3 %		86.0%	239,370	234,106	概ね順調	成果指標は目標値に達しなかったが、令和7年度はラグビー男子「日本代表VSウェールズ代表戦」や「ワールドスケートボードストリート2025北九州 - グランドファイナル -」など多くの国際スポーツ大会が誘致・開催された。 また、大会開催に合わせて、観光イベントなど組織横断的な連携による取組やミールクーポンの実施により、市内への周遊促進や消費拡大につなげることができたことから、「概ね順調」と判断。 目標値を達成するため、引き続き、大規模国際スポーツ大会等を積極的に誘致・開催していく。	継続
プロスポーツチーム等との連携によるまちづくりの推進	10	ホームタウン推進事業	北九州市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「日本製鉄堺フレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施する。	スポーツ振興課	スポーツを身近に感じる市民の割合（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	44.4 %		R11年度までの目標：70.0%	54.0 %		51.9 %		96.1%	スポーツ観戦率（行政評価市民アンケート：毎年度）	R4	20.0 %		R11年度までの目標：40.0%	28.0 %		26.4 %		94.3%	55,000	50,045	概ね順調	市民がスポーツを見る機会の増加を推進する招待事業等に積極的に取り組み、「スポーツを身近に感じる市民の割合」および「スポーツ観戦率」の目標達成率がどちらも90%を超えていることから、「概ね順調」と判断。 令和7年度は、20回以上の市民招待を行うなど、スポーツを身近に感じる市民の割合や市民のスポーツ観戦率の向上に努めた。今後も引き続き、「ギラヴァンツ北九州」をはじめとする各プロスポーツチームと連携し、「観る」スポーツの振興やスポーツに親しむきっかけづくりを図る必要がある。	継続
集客力のある大規模イベントの誘致	11	TGC北九州2025開催事業	史上最大のファッションフェスタである「東京ガールズコレクション」とコラボレーションしたファッションイベントを本市で開催し、地方創生に向けた都市ブランドの向上と地域経済の活性化を図るとともに、同規模イベントの開催誘致の促進を行う。	MICE・メディア芸術課	大型イベントの開催件数	R5	4 件		R10年度までの目標：10件	10 件		8 件		80.0%											35,000	35,000	概ね順調	令和10年度までの目標値10件には届かなかったが、令和6年度の5件を大きく上回る結果となり、大型イベント開催地としての認知促進が図られていることから、「概ね順調」と判断。 今後も、TGC北九州のような大型イベントを北九州市にて継続実施することで、民間の大型イベント誘致促進に繋げたい。	継続
	12	MICE・エンタメを活用した集客促進事業	市外からの来訪者が大半を占めるコンサート等のエンターテインメントや海外からの来訪者が多い国際会議等を誘致することにより、交流人口の創出・拡大による経済の活性化を図る。 将来的には民間事業者による自走を目指し、コンサート開催地としての都市のイメージアップを目指す。	MICE・メディア芸術課	大型イベントの開催件数	R5	4 件		R10年度までの目標：10件	10 件		8 件		80.0%											17,000	14,584	概ね順調	令和10年度までの目標値10件には届かなかったが、令和6年度の5件を大きく上回る結果となり、大型イベント開催地としての認知促進が図られていることから、「概ね順調」と判断。 今後も、大型コンサート等の集客力のあるイベントの開催実績を積み重ね、中長期的な恒常開催の実現を目指すとともに、まちのにぎわい創出や経済効果の拡大に繋げていきたい。	継続
若者が集うイベントの誘致	13	「ポップカルチャーのまち北九州」推進事業	北九州市の都心集客の拠点となるJR小倉駅新幹線口を中心に、漫画・アニメ・ゲーム等のポップカルチャーによる大型イベント等の開催を通じて、誘客やクリエイター産業の交流・育成を図るとともに、滞在日数の増加・インバウンド誘客を図り、「まち」への経済効果を高める。	MICE・メディア芸術課	大型イベントの開催件数	R5	4 件		R10年度までの目標：10件	10 件		8 件		80.0%	大型協賛（300万円以上）企業数	—	—		R15年度までの目標：3件	3 件		1 件		33.3%	30,800	30,780	やや遅れ	大型イベント回数件数および大型協賛企業数とともに目標に達成しなかったため、「やや遅れ」と判断したものの、大型イベント開催件数は、令和6年度の5件を大きく上回る結果となり、大型イベント開催地としての認知促進が図られている。 今後も、年間を通した「KPF（北九州ポップカルチャーフェスティバル）関連イベント」によるにぎわい創出の工夫や、令和7年度の声優鈴村健一氏の北九州市観光大使就任を契機とした、各目標値の達成に向け新たな取組を実施していく。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性			
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値		達成率
7区の特徴を生かした観光コンテンツの魅力向上 （観光地、祭りなど）	14	日本新三大夜景都市ブランドを活用した夜型観光促進事業	北九州市は、令和6年に2回連続で「日本新三大夜景都市」全国1位に認定された。この偉業を活かしたプロモーションや夜景資源の開発を、市民を巻き込んで実施すると、本市の夜型観光を更に促進させ、宿泊者数の増加及び消費額拡大を図る。	インバウンド課	観光消費額 （北九州市観光動態調査：毎年）	R5	1,004	億円	R7年度までの目標：1,700億円	1,700	億円	集計中 （R8.秋頃公表予定） （R6：980億円）		—									15,000	15,107	順調	観光消費額は集計中であるが、夜景関連のプロモーション回数は目標値6回に対し、実績値13回と目標を上回ったため、「順調」と判断。今後も、本市の夜型観光の促進を図るため、引き続き夜景ブースの出展などプロモーション活動に取り組む。	継続	
	15	門司港レトロリニューアル事業	門司港レトロ地区において、さらなる魅力向上施策を推進し、観光客誘致や観光消費額の増加を促進する。	門司港レトロ課	門司港地区の観光客数 （地区別観光客数）	R4	173.6	万人	—	300.0	万人	集計中 （R8.秋頃公表予定） （R6：278.4万人）		—									393,084	420,581	順調	門司港レトロ地区における、有料観光施設の利用者が令和6年度比109.8%の736,363人であり、令和7年度目標値717,000人の102.7%であったことから、「順調」と判断。今後も、魅力向上施策を推進し、観光客誘致や観光消費額の増加に取り組む。	継続	
	16	小倉城周辺歴史文化観光磨き上げ事業	長崎街道（シュガーロード）など、小倉城関連の歴史的・文化的資源の掘り起こしや、観光資源の磨き上げ・施設設備の老朽化対策等を図り、広域的な連携を含めた情報発信を実施する。	観光課	小倉城入場者数	R5	25.8	万人	—	30.0	万人	35.2	万人	117.3%	観光消費額 （北九州市観光動態調査：毎年）	R5	1,004	億円	R7年度までの目標：1,700億円	1,700	億円	集計中 （R8.秋頃公表予定） （R6：980億円）		—	6,600	7,169	順調	「小倉城竹あかり」との連携も結実し、小倉城を起点とした地域一体での観光誘客スキームが着実に形になりつつあり、小倉城の入場者について目標値を上回る人数となったことから、「順調」と判断。今後も小倉城周辺で開催されるイベントの国内外に向けたSNSなどによるPR活動に取り組む。
多様な観光ニーズへの対応 （ステイケーション、ロングステイ、サイクルツーリズム、トレッキング、富裕層向けサービスなど）	17	海外作品等誘致・支援事業	アジア諸国の映像作品の撮影を誘致することで、当該映像作品の公開国の人々に広くロケ地である北九州市を知ってもらい、北九州市の魅力を発信することで観光客（インバウンド）誘致につなげる。	MICE・メディア芸術課	海外映像作品撮影による直接経済効果	R5	26,420	千円	—	50,000	千円	5,013	千円	10.0%										7,300	9,875	遅れ	海外作品の誘致実績は、成果指標の目標を下回ったものの、タイ・バンコクで開催された文化庁主催の観光イベントへの出展を通じて、本市の撮影環境や多彩なロケーションを海外の映像関係者へ直接PRした。海外作品は国際情勢や映像業界の動向等の影響により短期間での成果が表れにくい側面があるため、継続的な取組が重要である。今後も営業活動や情報発信を通じ、海外作品の誘致拡大及びインバウンド誘客、地域経済への波及効果の創出を図る。	継続
「食」の魅力を活かした周遊観光の推進（寿司&キャッスル）	18	「すしの都 北九州」ブランド発信事業	「すしの都 北九州」のイメージ定着に向けた気運の醸成、宿泊とすし等を組み合わせた旅行商品造成、小倉城など市を代表する観光施設でのすし握り体験会などを実施する。	すしの都課	観光消費額 （北九州市観光動態調査：毎年）	R5	1,004	億円	R7年度までの目標：1,700億円	1,700	億円	集計中 （R8.秋頃公表予定） （R6：980億円）		—									14,000	14,200	順調	市民だけではなく、県外や国外の方にも北九州市のすしを食べていただく美食体験会の実施回数は17回と目標の10回を大きく上回った。観光消費額は集計中であるが、単にすしを味わってもらっただけではなく、北九州市のすしが美味しい理由についてもPRを行い、すしの都課発足後、多くのメディアに取り上げられ、「すしの都」の取組の認知を広げることができたことから、「順調」と判断。今後も、すしをフックとした魅力発信や地域経済の活性化を図るため、富山県等との広域連携の構築や、「すしの都」の機運を盛り上げるため、市民や飲食店等に向けた広報・啓発活動を行う。	継続	
外国人観光客の誘客の推進	19	MICE誘致推進強化事業	MICE開催を通じて海外から企業・大学などの主要な研究者等、次世代の人材を多く集め、北九州市の知名度向上を図るとともに、集まった人を市内へ送り出す地域経済の活性化に資する取組を強化する。	MICE・メディア芸術課	経済波及効果	R5	114	億円	R10年度までの目標：130億円	130	億円	122	億円	93.8%										81,000	82,327	概ね順調	令和7年度のMICE開催件数は248件と、目標の300件には到達できなかったものの、経済波及効果では、実績値が122億円と目標の130億円に向けて堅調に推移していることから、「概ね順調」と判断。今後も、MICE開催を通じて、北九州市に国内外から人を集め、北九州市の知名度向上及び地域経済の活性化に繋げたい。	継続
	20	インバウンド誘致促進事業	北九州空港・福岡空港に直行便のあるエリアを主なターゲットとして、観光プロモーション（情報発信）や受入環境の整備等を行い、外国人観光客の誘客促進を図る。	インバウンド課	外国人観光客数 （北九州市観光動態調査：毎年）	R5	26.9	万人	—	70.0	万人	集計中 （R8.秋頃公表予定） （R6：36.7万人）		—									140,700	118,422	順調	外国人観光客数は集計中であるが、海外観光客向けプロモーション件数は目標値50件に対し、実績値55件と目標を上回ったため、「順調」と判断。今後も、訪日外国人観光客の増加が見込まれる中、より多くのインバウンド需要を取り込む必要がある。	継続	